

人を幸せにする仕事。 お客様から愛され 成長でできる仕事です

学校法人ミスパリ学園 理事長
取材文／堀水潤 撮影／中岡邦夫
下村朱美



【理事長プロフィール】1957年生まれ。池坊短期大学卒業。82年シェイプアップハウス創業。90年ミスパリインターナショナルスクール(現ミスパリエステティックスクール)理事長。08年より現職。株式会社シェイプアップハウス代表取締役。

【学校プロフィール】ミスパリ エステティックスクールを母体に2008年「ミスパリ エステティック専門学校」として開校。エステティック学科、エステティシャン総合学科、エステティックマスター学科ほか認定エステティシャン科、通信教育科も。

「技術とともに理論がわかるエステティシャンが必要」。これは27年前、私がエステティックの仕事始めた理由です。以来、お客様が何を求めているかを常に意識したサロン経営とスクール運営(90年〜)を行ってきました。そうした経緯がありますから、08年度に開校した「エステティック専門学校」(大阪・名古屋)でも技術だけを教えているわけではありません。美学、つまり人を美しくすることすべてを教えているのです。そのため、美容に関する最先端の技術や理論はもちろん、接遇マナーや話し方なども学んでもらいます。外国語や茶華道も教えますし、一流の芸術に触れ、感性を磨いてもらいます。内面も含め、美しさとは何かということについて2085時間(エステティック学科)という濃密なカリキュラムを通じて学んでもらうのです。

そこまで徹底するのは、卒業後、大切なミスパリの子どもたちが、お客様に愛されるエステティシャンとなり、成長してもらいたいからです。また、どんな高級サロンでも働けるだけの実力をつけてあげたいからです。「エステティックミスパリ」「ダンディハウス」などの系列サロンに就職する学生も大勢いますが、

そこにグループとしての馴染みは一切ありません。

日本のエステを世界へ受けたいエステにする。それが私たちの目標です。メイド・イン・ジャパンのエステを広めていきたいのです。パリやタイなど海外には無数の高級スパがありますが、高品質でホスピタリティあふれる日本のエステは決して引けを取りません。実際、ミス・インターナショナルの入賞者に体験してもらった際は、高い技術と接客に感嘆の声が上がりました。

私たちが時間をかけて育てているのは、ひざまずき目を伏せながら足を洗うのではなく、お客様と目を合わせ堂々と話し、美を創り出せる人材です。ある意味でプライドの高いエステティシャンといえるかもしれませんが、それは、お客様と対等というのではなく、お客様が求める美に対して対等になれるだけの力を有するということです。

専門学校を開校したのは、社会的地位が高い欧米のように、日本でもエステの仕事をもっと公にしたいと考えたから。エステティシャンは人の心を癒し、幸せにする仕事です。介護や福祉分野からのニーズも含め、今後ますます求められていくことでしょう。